

<H6-4-A : 問題>

次の文は平板測量について述べたものである。間違っているものはどれか。

1. 平板の標定とは、平板の上面を水平にし、地上点とそれに対応する平板上の点とを同一鉛直線上に合わせ、平板の方向を定めることである。
2. 基準点を用いて平板を正しい方向に置くには、なるべく近い基準点によって標定する。
3. 交会法では、距離の測定を行うことなく求点の位置を決定することができる。
4. 支距（オフセット）法とは、求点から一定の基準となる測線（準拠線）への垂線を下ろし、この垂線の長さと、準拠線上の既知点から垂線と準拠線との交点の距離を測定して、求点の位置を決定する方法である。
5. 放射（光線）法とは、既知点から求点に向けて方向線を引き、距離を測定してその距離を図上距離に直したものを方向線上に取り、求点の位置を決定する方法である。

<H6-4-B : 問題>

傾斜が一様な土地の 2 地点間の傾斜角と斜距離をアリダードと巻尺を用いて測定し、傾斜角 +20 分画、斜距離 25.5m を得た。この 2 地点間の水平距離はいくらか。次の中から選べ。
ただし、 $\sqrt{1.04} = 1.02$ とする。

1. 25.0m
2. 25.1m
3. 25.2m
4. 25.3m
5. 25.4m

<H6-4-C : 問題>

点 B の標高を求めるため、既知点 A に平板を据え、点 B の測標をアリダードで視準して +12.0 分画を得た。また、縮尺 1/500 地形図上で A B 間の長さを測定し、60.0mm を得た。これらの測定値を点検したところ、分画の読定値が +12.5 分画、A B 間の図上距離が 60.2mm となった。このときの点検前と点検後の求めた点 B の標高の差はいくらか。最も近いものを選び。ただし、点 A における器械高と点 B における測標高は等しく、地形図の伸縮はないものとする。

1. 10 c m
2. 12 c m
3. 14 c m
4. 16 c m
5. 18 c m

<H6-4-D : 問題>

次の文は、新しい測量技術を用いた地形測量について述べたものである。間違っているものはどれか。

1. 平板測量の結果を数値化することにより、コンピュータで処理することができる。
2. 数値化された平板測量のデータは、磁気ディスク等の磁気媒体に記録される。
3. 平板測量の結果を数値化することにより、地物の水平位置の精度が向上する。
4. トータルステーションを用いる細部測量では、現地においてデータを取得し、室内において図形処理することができる。
5. 平板を据える点の位置をGPS（凡地球測位システム）を用いた測量で求め、そのデータに基づき、平板により細部測量を行うことができる。